



# 学校だより

12月号

横浜市立六つ川台小学校

令和2年11月30日

URL:<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/mutsukawadai/>

E-mail:y3mutukd@edu.city.yokohama.jp

## 変わり続ける環境の中で

教務主任・児童支援専任 高味 裕二

私自身が小学生だった頃、教室のごみ箱は1つでした。現在の六つ川台小学校の教室には、3種類のごみ箱があります。横浜市が「G30」政策を打ち出し、その後「3R夢」へと移行する中で、学校が環境教育の場としてごみの分別を徹底することができるように変わってきたからです。しかし、子ども達の立場では気を付けることも増えたのだろう、今の子どもは大変だなあと、先日何気なく感じました。

そんな時、「増える」があるなら「減る」もあるはずと、時代とともに学校から減ったもの、無くなったものを探してみました。

例えばOHP。下から光を当て、鏡で反射させてスクリーンに映す機器で、社会科の資料などに多く使われていました。しかし、大型モニターやパソコンなど、OHPを超える能力を備えた機器の出現や、ネット社会の急速な発展による画像資料の普及により、姿を消していきました。

カセットテープもその例です。昔の教室には決まってラジカセがあり、テープを繰り返し再生するためには、続けて録音しておくか、演奏が始まった場所まで巻き戻すかして対応したものです。しかし記録媒体が高音質・大容量のコンパクトディスクやハードディスクなどに変わり、機器の不具合を機に退いていきました。

新たな機器の登場による世代交代。引退する機器があれば、それに伴う技能や注意事項も不要になります。OHPは重いので二人で運搬、使用後は熱いのですぐに持たない、このような注意を学習係さんにする必要はなくなりました。ボタンを同時に押し高速ダビングをする、テープの残り具合から判断して裏返しB面の最初から録音する、こういった技も駆使しなくなりました。

けれども、代わりに新たな技能や注意が求められるようになりました。ICT活用、情報教育…。そういう面では、ただ減ったもの、ただ無くなったものはなく、常に何か新しく、よりよいものに変わってきたことに、改めて気付きます。

これからの社会を生きていく子ども達には、新しいものに適応する力、身に付けたことを活用する力がより大切になると言われています。今はマスクの着用や検温の実施などもあり、子ども達にとって決して嬉しくない変化の仕方になっていますが、このコロナ禍においてもご家庭や地域の力をお借りしながら、変わり続ける環境に応じて、子ども達に寄り添って参ります。

2020年も大変お世話になりました。よいお年をお迎えください。